

編集後記

◇ 2012年12月に衆議院総選挙が実施されるまで、長びく経済不況、デフレ状態、そして株安・円高が重なり、日本全体に沈滞ムードが漂っていた。ところが、自民党が政権に復帰した途端、一転して株価が上がり為替相場も円安傾向に転じた。政策の舵取りによる違いを、まざまざと見せつけられた。

この状況が、いつまで続くかは不透明である。しかし、為替相場の円高で資金運用での利金減少に苦しみ続けてきたいも類振興会にとっては、願ってもない明るい兆しとなっていることは間違いない。

◇ 巻頭言で述べたようにいも類振興会は、4月1日から一般財団法人として新たなスタートを切った。それに先だち3月25日には、財団法人としての最後の理事会、評議員会を開催した。一般財団法人移行への経過説明を行い、平成25年度の事業計画、収支予算書の承認をえた。現在の円安という為替水準が担保され続けられれば、当振興会の資金運用について、一息入れることができよう。また、平成25～26年度の2ヵ年間で、新たに「焼きいも百科」を刊行することとなった。

◇ 本誌No.115の特集は、「ポテトチップスの現在・過去・未来」をとりあげた。ポテトチップス製造企業の皆様にも、全面的な執筆協力をいただいた。

戦後、アメリカから日本に入ったチップスは1950～1960年代にかけて緩やかな消費の伸びをみせ、1970年代後半から一気に著しい成長を見せた。そして現在、少子高齢化の時代を迎えて、日本のポテトチップス産業も転換期を迎えているようにみえる。原料ジャガイモの安定供給、消費市場の海外展開等の課題を含めて、一つの正念場を迎えつつあることは確かであろう。

◇ 平成24年度かんしょ品質評価研究会は、1月22日に農研機構の九州沖縄農業研究センター（都城市）で開催された。この品質評価研究会は、実需者の企業の皆さんに焼きいも、干しいも、ペースト、いも羊羹、大学いも、ケンピ・チップ、色素、焼酎に適する将来の品種候補を調査・分析いただき、そのデータに基づき評価・検討し、新品種の育成に結びつけていくことを目的としている。会議でも試食しながら、評価する方式をとっている。自由な発言も多く、参考になる楽しい研究会だ。

翌日の23日には、いも焼酎生産の1／3の全国シェアをもつ霧島酒造(株)のご厚意によって、都城市内にある志比田増設工場を見学させていただいた。いも蒸しから蒸留に至る本格焼酎ができるまでの工程を現場で説明いただく。何よりも工場全体が清潔で、焼酎粕も有効活用されていることが印象的であった。

(狩谷 昭男)

いも類振興情報 第115号

2013(平成25)年4月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225
E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社